

新吉は藤澤の遊行寺の前の方の木賃宿にねた。

都築郡山内村荏田に、尾上と云ふ同窓が代用教員をしてゐる。

新吉は去年の夏時分其處に行つた。

辻潤が呼びに來た事がある。

高洲幹一腦溢血危篤で直ぐ歸らなければならぬと自動車で迎ひに來たのだ。

玉川電車の終點から、三里ばかり馬車が通つてゐる。

新吉は玉川の川原にケツを下ろして、持つて來たバスケットも、コマゴマした不要なものも川に流した。

狂人は我國の隨所に見られた。

さて馬車に乗る金も新吉は持たなかつた。

黒い畑の土を消え掛かつた雪が所々に見せてゐた。

新吉は夕方になつて、ユーカーが二三本をより立つてゐる校門を這入つて行つた。

尾上は教員室に何時も酒癖の悪い教頭と二人で宿直してゐた。